

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月19日
中国運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
三次市地域公共交通会議	備北交通株式会社	三次町循環 1日8循環 南畑敷町循環 1日8循環	市主催のイベントで路線案内等を掲載したほか、三次駅前案内板に施設案内と併せて時刻表を掲載し、利用を呼び掛けた。	A	B	観光利用促進を図るべく、停留所周辺の施設と連携して利用を促すなど、さらなる利用促進を図る。	・運行事業者と協力し所要時間短縮等の利便性を向上させるための取組を行ったことは評価できる。 ・利用者のニーズに対応した運行内容の検討や、地域と連携して観光利用も含めた利用促進の取組を進めていくことで利用者の増加につなげていくことを期待する。	
		赤名線 1日4往復	運行事業者と協議を行い、接続路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行った。	A	A	引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善の検討を行う。		
		下高野線 1日4往復	関係自治体や運行事業者と協議を行い、並行路線との重複を解消するなどの再編を行った。	A	A	再編後の利用状況を観察するとともに、沿線地域の住民(地域内交通検討会)の意見も聞きながら、利便性向上と利用促進を図る。		
		作木線① 1日3往復	運行事業者と連携し、運転時分の適正化を図り、所要時間を短縮させることで利便性を向上させた。	A	B	新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛等で利用が減少したものの、通学・通院利用を中心に、市民の日常生活に欠かせない路線であることから、現在の運行形態を維持する。		
		作木線② 1日2往復	運行事業者と連携し、運転時分の適正化を図り、所要時間を短縮させることで利便性を向上させた。	A	B	新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛等で利用が減少したものの、通学・通院利用を中心に、市民の日常生活に欠かせない路線であることから、現在の運行形態を維持する。		
	有限会社君田交通	川の駅三次線 1日5往復	作木町内生活交通検討会を中心に、利用状況を勘案しながら、利便性向上に向けた検討を行った。	A	A	本路線は通学利用が中心の路線であることから、運行事業者と協力し、利用実態の把握に努め、通学時に利用しやすいダイヤ編成の検討などにより、利便性向上を目指す。		
	特定非営利活動法人 元氣むらさき	作木町上地区 週2回	運行主体と連携し、作木町内で運行のPRを積極的に行ったほか、IT技術を用いた運行管理システム及び予約アプリの導入(実証実験)により、利便性向上を模索している。	A	B	他の交通手段への乗換等、作木町内生活交通検討会や運行事業者と連携しつつ、利便性の向上及び利用促進を図る。		
		作木町中地区 週2回						
		作木町下地区 週2回						

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	
廿日市市公共交通協議会	佐伯交通有限会社	玖島・友和線	・最近の利用状況を検証し、目標値の見直しを行った。玖島・友和線については沿線人口数を考慮して目標値を5%増に設定した。	A	B	・玖島・友和線、所山線ともに、利用者数が減少で目標未達成。効果的な利用促進の方法について検討が必要。 ・PRの機会を増やし、分かりやすいチラシや説明用動画を用いるなど、工夫しながら周知を図るとともに、市の乗合バスと連携をとり、利用しやすさの向上を目指す。	・新型コロナウイルス感染症の影響もあるため目標を達成できていない系統があることはやむを得ないと考えられるが、ダイヤ改正等の取組により、一定の利用者数の獲得をできていない系統があることは評価できる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響もあるため対面でのPRだけでなく、市の広報誌やケーブルテレビなど、多様な媒体を活用したPRの方法を議論していきたい。
		所山線		A	B	・新型コロナウイルス感染予防の徹底。	
		玖島～玖島分れ～友和学校ロータリー(申請番号3)		A	C	・目標を達成していないため、PRの機会を増やし、利用促進の方法について検討が必要。 ・新型コロナウイルス感染予防の徹底。	
		玖島～友和学校～佐伯中学校前～さいき文化センター～津田(申請番号4)		A	A	目標を達成。さらにPRの機会を増やし、収益率増加を目指す。 ・新型コロナウイルス感染予防の徹底。	
	有限会社津田交通	浅原線	・最近の利用状況を検証し、目標値の見直しを行った。浅原線については沿線人口数を考慮して目標値を5%増に設定した。	A	B	・一定の稼働率を維持しているものの、利用者数は全体的に減少傾向にあるため、効果的な利用促進の方法について検討が必要。	
		飯山・中道線		A	C	・PRの機会を増やし、分かりやすいチラシや説明用動画を用いるなど、工夫しながら周知を図るとともに、市の乗合バスと連携をとり、利用しやすさの向上を目指す。 ・新型コロナウイルス感染予防の徹底。	
		吉和線		A	C	・高齢者の介護予防事業や学校行事にデマンドを活用してもらっている。 ・予約受付の一部を担う吉和支所や運行事業者と、利用促進策や運行内容の改善について検討した。	
		津田～吉和間自主運行バス		A	C	・目標は達成していないが、一定の利用者数がおり、効果をあげている。引き続き、PRの機会を増やし、収益率増加を目指す。 ・新型コロナウイルス感染予防の徹底。	

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
府中市地域公共交通活性化協議会	株式会社中国バス	府中市役所～ 道の駅びんご府中～ 府中市民病院～ 府中市役所	・道の駅を交通結節点とした他路線への接続もスムーズに行われ、利用者の利便性向上が図られた。 ・日頃公共交通を利用する機会が少ない幼稚園等とその家族に利用促進策として循環バスの飾り付けを行い、無料乗車券の配布を実施した。	A	B	【右まわり便】 ・コロナウイルスの感染拡大の影響により、目標数値を下回ったと推察される ・高齢者等の移動手段として定着している。 ・令和3年度目標 利用者17,000人/年	・利用者のヒアリングに基づいた利便向上の取組を行った結果、利用者が増加した点は効果のあった取組として評価できる。また、主たる利用者以外へも積極的に利用促進の取組を行っていることは評価できる。 ・今後も、住民のニーズにあわせて交通手段の導入や運行内容を検討していくとともに、利用者増加への取組により、持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待する。	
		府中市役所～ 見晴団地～ 府中高校～ 道の駅びんご府中～ 府中市役所	・商業施設1箇所と連携し循環バスの利用で買い物料金の割引が可能となる特典を、引き続き実施した。 ・利用者からのヒアリングにより、新規路線を走行する車両の構造的な不便(ICカード非対応、乗降口の段差の高さなど)を解消した車両を導入し、乗客のスムーズな乗降を実現した。	A	B	【左まわり便】 ・前年比500人以上の増加となり、新規路線の利用が伸びている状況である。 ・令和3年度目標 利用者11,000人/年 【共通事項】 ・今後も、高齢者以外にも利用を促進するためにモビリティマネジメントの実施を続ける。		
安芸高田市公共交通協議会	有限会社高宮中央交通	高宮甲田区域	・市役所総合窓口課や高齢者運転免許自主返納支援制度担当課である危機管理課と連携し、利用方法及び登録受付を行い、利用者増を図った。また、運転免許を自主返納する高齢者への支援制度として、乗車回数券の配布を行い、利用促進を図った。 ・商業施設と連携し、乗車補助券を配布する取組を行った。	A	B	・今後も引き続きアンケート調査を行い、利用者の潜在的なニーズを把握し、地域の実情に適した運行を検討する。 ・引き続き高齢者運転免許自主返納支援制度担当課である危機管理課や総合窓口課と連携し、免許返納後の利用促進を図るとともに、商業施設と連携し、乗車補助券を配布する取組を継続実施する。 ・持続可能な交通ネットワークの構築を目指し、タクシー等の活用も含め、他市町の動向を見ながら検討する。	・市役所総合窓口課や高齢者運転免許自主返納支援制度担当課、さらに商業施設と連携して利用促進の取り組みを進めている点は評価できる。 ・商業施設と連携した取組を継続して実施するにあたり、この取組が利用者の増加にどう影響を与えたのか効果・検証を行うことで、当該取組がより効果的なものとなることを期待する。 ・今後も連携して利用促進の取り組みを進めることで、利用者の増加、目標の達成、それによる持続可能な交通ネットワークの構築のための取組がより行われることを期待する。	
	織田産業株式会社	美土里区域・吉田八千代区域						
	有限会社吉田タクシー	吉田八千代区域						
	沖田 正	美土里区域・吉田八千代区域						
	有限会社甲立タクシー	甲田向原区域						
	岩本 薫							
	升岡 秀治							

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
三原市地域公共交通活性化協議会	双葉運輸株式会社 株式会社エフ・ジー おかの交通株式会社	①船木路線 ②北方路線 ③南方路線	・路線バスとコミュニティ交通の概要を掲載した時刻表を作成し、新聞折込により各戸へ配付し、利用促進に取り組んだ。	A	B	・現在の運行を継続するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した利用者数の回復に向けて、今後も町内会長連合会、交通事業者、市が協働して普及・利用促進を継続して取り組む。 ・必要に応じてサービス内容の改善を行い、より効果的な運行を図る。	<p>・新聞折込による時刻表配布等の広報活動やアンケートの意見を反映するといった利用促進活動は評価できる。</p> <p>・区域運行への切り替えなど運行形態の見直しについては、交通事業者や住民などの関係者で十分議論され、地域実態に即した運行になるよう期待する。</p>	
	三原市	①徳納(保)宅横～小林鍼灸院	<p>・路線バスとコミュニティ交通の概要を掲載した時刻表を作成し、新聞折込により各戸へ配付し、利用促進に取り組んだ。</p> <p>・区域運行の乗合タクシーへの転換に向けて、町内会や交通事業者、福祉団体、市で構成する検討部会を組織し、協議・検討を行った。</p>	A	B	<p>・三原市地域公共交通網形成計画で定めた地域コミュニティ交通の見直し基準の収支率10%を2年連続で下回り、今後も利用者の増加が見込めないことから、区域運行の乗合タクシーへの転換(令和3年10月)に向けて関係者と協議・検討を進める。</p>		
		②下谷橋～中山歯科						
		③山崎倉庫跡～中山歯科						
④和木ストア～中山歯科								
⑤村上店～中山歯科								
有限会社久井交通	八幡路線	・町内会、交通事業者、市で利用状況や利用促進等について意見交換を行った。その後、町内会から利用状況を各世帯へ回覧により周知するとともに、利用を促した。	A	B	・町内会、交通事業者、市が協働で利用PRなどの普及・利用促進を継続して行うなど、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した利用者数の回復に向けて取り組む。			
江田島市公共交通協議会	株式会社江田島タクシー	江田島北部線(江田島町) 大須～切串～小用	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載し、フィーダー系統の利用方法などの周知を行った。 ・令和2年10月1日から稼働率向上のために、1日4便から5便に増便させるダイヤ改正を行った。	A	B	<p>・江田島北部線、江田島北部朝夕便・稼働率が目標を下回る便を中心として、令和2年10月1日から市民の移動ニーズに対応したダイヤ改正を実施した。今後の稼働率の動向等を確認していく。</p> <p>・沖美北部線：新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、利用者数が減少した。運行地域住民に対し、利用促進のためのPRを実施し、利用者の更なる増加を目指す。</p> <p>・沖美南部線：災害による通行止めが解除されたことに伴い、利用者数は増加した。現在の運行を継続するとともに、必要に応じてサービス内容の改善を行い、より効果的な運行を図る。</p> <p>・フィーダー系統を利用したことがない人、特に利用の仕方が分からない人に、広報誌などを活用して、その仕組みや利用方法を分かりやすく説明し、利用者の増加につなげる。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、出前講座の実施ができなかった。今後は、出前講座の取組を行い、宣伝・広報活動も兼ねて住民の声を取り入れ、より使いやすく、便利なものに改善する。</p>	<p>・コロナウイルス感染症の影響あり利用者が減少したことはやむを得ない部分もあるかと考えるが、今後利用促進活動を通して改善されることを期待したい。</p> <p>・ニーズに対応した運行内容の見直しや利用促進に取り組むことで利用者の増加につなげ、目標の達成、それによる持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待する。</p>	
		江田島北部線(朝夕便) (江田島町) 大須～切串～小用	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載し、フィーダー系統の利用方法などの周知を行った。 ・令和2年10月1日から中町航路と路線バスの接続に配慮したダイヤ改正を行った。	A				
	城山 賢二	沖美北部線(沖美町・能美町) 美能～高田～中町	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載し、フィーダー系統の利用方法などの周知を行った。 ・公共交通を守り・育てるため、公共交通に関する出前講座を行った。	A				
	有限会社能美タクシー	沖美南部線(沖美町・能美町・大楠町) ～H29.3.31:三吉～是長～中町～大君 H29.4.1～:三吉～是長～中町	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載し、フィーダー系統の利用方法などの周知を行った。 ・令和2年10月1日から中町航路と路線バスに配慮したダイヤ改正を行った。	A				

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
広島市陸上交通地域協議会	有限会社やぐちタクシー	フレスタロ田南店前～コープ高陽・矢口 駅～フレスタロ田南店前(8.8km)	新規利用者の獲得、利用者の利便性向上のため、 障害者割引の導入や、乗りやすさに配慮した新型車 両の導入を行った。	A	B	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、 周知活動を行うなど、利用促進に努める。	・新しい割引や車両の導入を通して利便向上を進め ていることは評価できる。 ・今後もニーズに対応した運行内容への見直しや地域 と連携して利用促進に取り組むことで利用者の増 加につなげ、目標の達成、それによる持続可能な 交通ネットワークが構築されることを期待する。	
		フレスタロ田南店前～コープ高陽・矢口 駅～上矢口上(10.0km)						
	有限会社カーブタクシー	黄金山町24番前～池田整形外科前～ 黄金山町24番前(9.5km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた 適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用 促進を図った。	A	A	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、 周知活動を行うなど、利用促進に努める。		
	有限会社中野タクシー	上平原～JR安芸中野駅前～安芸市民 病院(往路8.9km,復路9.0km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた 適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用 促進を図った。	A	B	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、 周知活動を行うなど、利用促進に努める。		
		ひまわり・ダイキ前～JR安芸中野駅前 ～安芸市民病院(往路11.3km,復路 11.3km)						
	株式会社フォーブル	下城ハイツ上～伊藤内科～下城ハイツ 上(6.9km) 下城ハイツ上～Aシティ中央～下城ハイツ 上(13.5km)	新規利用者の獲得、利用者の利便性向上のため、2 つある系統を一本化するルート・ダイヤ改正を行っ た。	A	B	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、 周知活動を行うなど、利用促進に努める。		
有限会社カオル交通	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆待川駅 前～アルゾ前(8.1km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた 適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用 促進を図った。	A	A	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、 周知活動を行うなど、利用促進に努める。			
	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆待川駅 前～アルゾ前(12.0km)							
東広島市地域公共交通会議	中国ジェイアールバス株式会社	① 洪・長貫～シヨージ線～黒瀬支所線	地元運行協議会による利用状況調査を実施して利用 者ニーズを把握した。調査結果をもとに既存ルート上 にバス停を新設し、利便性の向上を図った。	A	A	利用者を確保するため、引き続き地元運行協議会による利 用ニーズ調査を実施し、その結果を運行内容へ反映させて いく。	・利用状況調査に基づいた取組が行われ利便性の 向上が図られていることは評価できる。 ・引き続き利用状況の分析等を行いながら地域の ニーズに即した取組が実施されることを期待する。	
		② 洪・長貫～黒瀬支所線						
		③ 八畝ヶ畑～黒瀬支所線						
		④ 洋国団地～黒瀬支所線						
		⑤ 檜原～黒瀬支所線						
		⑥ 上条～黒瀬支所線						
芸陽バス株式会社	市街地循環線の運行(2系統) ①内回り ②外回り	路線沿線の協力店舗と連携して公共交通利用のイ ventを実施し、利用促進を図った。	A	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、4.5月の利用者数 が前年度比55%程度と大幅に減少し、以後戻りつつあるもの の、前年度比80%程度の利用者数にとどまっている。 今後は、新しい生活様式を踏まえた目標値設定を検討すると ともに、路線沿線の協力店舗と連携して周知活動を行い、公 共交通の利用促進を図っていく。	・路線沿線の協力店舗と連携しての周知活動とい った利用促進事業は継続的に行っていただきたい。		
		路線沿線の協力店舗と連携して公共交通利用のイ ventを実施し、利用促進を図った。	A	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、4.5月の利用者数 が前年度比55%程度と大幅に減少し、以後戻りつつあるもの の、前年度比80%程度の利用者数にとどまっている。 今後は、新しい生活様式を踏まえた目標値設定を検討すると ともに、路線沿線の協力店舗と連携して周知活動を行い、公 共交通の利用促進を図っていく。	・目標達成状況や利用状況など、コロナの状況を踏 まえて分析をすることで利用者促進に向けた改善 策を見いだし、目標の達成、さらには持続可能な交 通ネットワークが構築されることを期待する。		

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
庄原市地域公共交通会議	備北交通株式会社	下高野線① 1日 4往復	関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用実態に応じて路線の再編を行った。(H30.10.1から系統及び時刻を変更)	A	A	再編後の利用状況を観察するとともに、沿線地域の住民の意見も聞きながら、利便性の向上と利用促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「乗り放題バス」の販売による利用促進策を行っており、目標の利用者数を達成できている点は評価できる。 ・今後も利用促進に取り組むことで、利用者の増加につなげ、持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待する。 	
坂町地域公共交通会議	坂町	坂町循環バス 坂・北新地線 (車両減価償却費等国庫補助金1両)	<p>令和元年9月に実施したアンケート結果を基にして、令和2年2月に、「安心なくらしを守るとともに、賑わいづくりに貢献する、便利でわかりやすく持続する地域公共交通」を目指す将来像とした。坂町第2次地域公共交通網形成計画を策定した。また、網計画で設定した目標や施策などを反映し、令和3年度地域内フィーダー系統確保維持計画を定めた。</p> <p>その中で、情報提供の改善については、各路線毎のポケット時刻表の配布やバスの利用に関する事項の掲出、バスデータ標準化のためのGTFSデータ作成など、取り組みを行っている。</p>	A	B	<p>平成30年4月から新たな運行形態で運行実施しており、これに対する満足度や新たな課題を把握するため、令和元年9月にアンケートを実施した結果、大きな課題はなかったが、地域住民及び利用者の循環バスに対するニーズが多様化している状況が確認された。その結果をふまえて令和2年2月に策定した、坂町第2次地域公共交通網形成計画では、「安心なくらしを守るとともに、賑わいづくりに貢献する、便利でわかりやすく持続する地域公共交通」を目指す将来像とし、坂町循環バスの運行日・運行時間の改善、商業施設等と連携した利用促進の実施、情報提供に関する改善、バスデータの標準化、安心・安全・快適な利用環境の構築などを具体的な事業として挙げている。</p> <p>その中で、早期に実現可能である、情報提供の改善については、適宜対応を行うこととしている。</p> <p>今後は、現在の運行を継続しながら、計画に掲げた各事業の実施に向けた調査・取組みを行い、坂町循環バスの利用促進を図り、将来に渡って持続可能な公共交通となるよう努める。</p> <p>また、令和2年3月以降に拡大した新型コロナウイルス感染症についても適切に対応を行っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポケット版時刻表の配布など利用者からの意見を反映した取組を行っている点、目標には届かなかったものの昨年度より利用者数が増加している点は評価できる。 ・引き続き住民のニーズの検証とそれに応じた運行内容の検討、新型コロナウイルス感染症の対応も含めた対応が行われることを期待する。 	
尾道市地域公共交通協議会	中国交通株式会社	区域運行型 ①菅野・上川辺地区 ②河内・今津野地区 ③綾目・大和地区	新規事業のため、前回の事業評価なし	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体や社会福祉協議会と連携することで、利用者は少しずつ増加傾向にあり、引き続き制度の周知に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内放送での周知や高齢者への登録支援等、地域団体や社会福祉協議会など地域で連携して利用促進に取り組んでいる点について評価できる。 ・利用者が増加傾向にあるとのことなので、引き続きニーズに応じた運行内容の検討や地域と連携した利用促進に取り組むことで、利用者の増加、目標の達成、それによる持続可能な公共交通ネットワークが構築されることを期待する。 	

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	
鳥取市生活交通会議	日本交通株式会社	①米里線(越路～市立病院) ②米里線(越路～桜谷口)	(R1二次評価結果) 人口減少がとまらずバス利用者の減少が進む中で、需要の掘り起こしやニーズ把握に基づく利用促進に取り組まれています。引続き持続可能な公共交通について効果的な措置を講じる努力をおこなっていただくよう期待します。 (反映状況) 意見交換会を行った。今後も利用促進に努めるとともに、地域に適した交通手段の検討を地元と重ねていく。		B	実利用者数が5名程度と非常に少ない。新たなニーズの発掘や、より利用しやすい運行に取り組む必要があるが、地域に適した交通手段について地域住民と意見交換を重ねていく。	・病院やスーパー利用などの生活交通として、地域に適した交通モード検討も含め、いかに利便性効率性を高められるかを関係者と連携して議論していただきたい。 ・タクシー助成や共助交通など、地域の実情に応じた交通手段を導入することで、住民に利用してもらえる持続可能な公共交通となるよう期待する。
	日ノ丸ハイヤー株式会社	雨滝・上地線	(R1二次評価結果) 引き続き地元と協議を進めながら効果的な利用促進策を検討していただき、持続可能な公共交通となることを期待します。 (反映状況) 路線バスとの乗継付近の公民館が令和2年度に新築された。地域拠点としての役割が一層期待されているなか、乗合タクシーにおいてもより利便性の高いものとなるよう可能な限りニーズを反映するよう今後も努めていく。	A	B	ダイヤ改善や路線延長等の要望事項について、地元・事業者等と検討を続ける。	・幹線アクセスを中心としたダイヤ設定がされており、通学を中心に利用され、目標値も一定程度達成できていることは評価できる。 ・これからも広く関係者と連携し、利用者ニーズに沿った運行をしていただきたい。
南部町地域公共交通会議	南部町	路線定期上長田線 大木屋～入蔵・あご牛・赤谷～丸合西伯店	・乗車数の目標数値は、地域の高齢化や児童数の減少等、目標達成のハードルがあったが、令和元年度の設定数値を目標とし、目標達成のため取り組んだ。	A	B	高齢者からデマンド乗車時の電話予約は手間がかかる等の積極的意見がある。今後方策の具体化を図っていくとともに、地元の住民団体とともに利用促進策を検討する。	・コロナ渦の中、目標値が達成できていない系統もあるが、感染防止に取組、安心して利用してもらえるよう努めていることは評価できる。 ・デマンド運行の予約については、スマートフォンを活用する、紙媒体での予約といった様々な手法が考えられるため、利用者も含め議論がなされ、ニーズに応じた運行を行っていただきたい。
		路線不定期上長田線デマンド 丸合西伯店～入蔵・あご牛・赤谷～大木屋	・ダイヤ改正について、地元の住民団体から聞き取りを行い、その改善案について、今後具体案について継続協議をしていくこととなった。				
		路線定期 東長田線 金山～久蔵・八金・二樹～丸合西伯店					
		路線不定期 東長田線デマンド 丸合西伯店～久蔵・八金・二樹～鎌倉入口					
		路線不定期 上長田東長田デマンド 丸合西伯店～鎌倉入口～大木屋					
	小型車両2台	運行車両については、運行実施に際して支障がないよう定期的な検査を行い、適切な管理を行った。	A	A	・小型車両の機動力を活かし谷部集落まで利用者のニーズを取り入れながら利用促進に努めることを期待する。		

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
米子市地域公共交通会議	日本交通株式会社	大山線 (伯耆大山駅～美濃・尾高～本宮)	OD調査や利用者への聞き取り調査を実施することで、利用目的や乗継状況を確認して、ニーズの把握にあたっている。	A	C	・ニーズにあったダイヤ等になるように検討する。 ・外出機会を創出するための高齢者の移動に対する支援策を実施する。 ・利用を促すチラシを作成して配布する。	・大山線については目標達成出来なかったが、輸送人員は前年より増加しており、福万線は目標達成できたという点では、取組効果として評価できる。 ・利用ニーズの把握に努めらうとともに、外出機会創出には、まちづくりと連携が必要になるので、関係者と議論して取り組んでいただきたい。	
		福万線 (伯耆大山駅～上新印～日下)	OD調査や利用者への聞き取り調査を実施することで、利用目的や乗継状況を確認して、ニーズの把握にあたっている	A	A			
江津市地域公共交通会議	江津市	松川波積線 川平駅～久坪～上津井～波積診療所 (路線不定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認した。	A	B	集落の人口減少の影響もあり、目標どおりの成果が見られなかったため、新規利用者の拡大等に向けて住民との連携に一層努めていく。	・稼働率が低下している原因が人口減少といった要因のみなのかを検証し、住民意見に加えて関係者と連携し議論していただき、今後効果的な運行につながることを期待する。	
		有福千田線 有福本明～堂庭～千田～跡市バス停 (路線不定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認し、地元協議も行った上で、令和2年4月からダイヤを改正した。	B	C	この路線による需要は極めて少なくなったことを踏まえ、地元との協議を進め、タクシー活用などを検討しながら見直していく。	・当該系統のあり方について、利用状況から、タクシー助成や共助交通などの選択肢も含め、早期に見直しを行う必要がある。	
		川平線 後谷～奥谷～川平駅口 (路線不定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認した。	A	A	新規利用者の拡大等に向けて住民と連携しながら、目標数の維持に努める。	・目標達成出来ており、今後も継続的できるよう効果的な運行につながることを期待する。	
		鹿賀線 鹿賀団地～川越～桜江総合センター (路線定期)	サービス水準の見直しの一環で運転手に利用者の状況を確認した。	A	B	集落の人口減少の影響もあり、目標どおりの成果が見られなかったため、新規利用者の拡大等に向けて住民との連携に一層努めていく。	・稼働率が低下している原因が人口減少といった要因のみなのかを検証し、住民意見に加えて関係者と連携し議論していただき、今後効果的な運行につながることを期待する。	
		江津川平線 川平～千金～ゆめタウン江津前 (路線定期)	サービス水準の見直しの一環で乗り込み調査を実施したほか、運転手に利用者の状況を確認し、地元協議も行った上で、令和2年4月から運行日を変更した。	A	A	乗り込み調査で出た意見などを反映し、新規利用者の拡大等に向けて住民と連携しながら、目標数の維持に努める。	・目標達成出来ており、今後も継続的できるよう効果的な運行につながることを期待する。	
雲南市地域公共交通協議会	雲南市	吉田ルート (吉田～菅谷)	・次期フィーダー計画策定に当たり、令和2年度計画より意欲的な目標設定を行った。 ・自治会や地域自主組織等の住民組織と連携し、周知による利用促進を図り、合わせて利用者ニーズの把握による運行内容の改善や、市民バスとの接続確保のためダイヤ改正に努めた。	A	B	住民組織と連携し、運行内容改善に努め、利用促進を図ることで、市民アンケートによる住民満足度が目標を達成できるよう取り組む。	・住民満足度は目標値を達成出来なかったが、利用者数は目標値を上回る結果となり評価できる。 ・今後も地域との連携や運行内容の改善等により、利用者の満足度向上に向けて努力していただき、持続可能な公共交通が実現されることを期待する。	
		田井ルート (吉田～川手)						
飯南町地域公共交通会議	飯南町	赤名吉田線 (1日4往復)	利用者数の目標を達成するため、ニーズの掘り起こし、ダイヤ改正等を行い利便性の向上を図る。	A	B	引き続き、利用者数の増加、利便性を図るため、ニーズの掘り起こし及びダイヤ改正等を検討する。	・ニーズに合わせたダイヤ改正等を行い利便向上を図っており、今後も住民及び関係者とよく議論していただき、利用者増加に努め持続可能な公共交通が構築されることを期待する。	
	備北交通株式会社	赤名線 (1日4往復)	関係自治体や運行事業者と協議を行い、三江線代替交通との接続を考慮したダイヤに変更した。	A	A	引き続き、ニーズの掘り起こしを行う。また、関係自治体や運行事業者と協議を行い、接続路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行う。		

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	
邑南町地域公共交通会議	備北交通株式会社	作木線① 1日 3往復	平成30年4月より運行が開始された三江線代替交通の作木線については、運行事業者との連携やダイヤ調整による利便性向上に取り組むなどして目標の利用者数を獲得しており評価できます。今後も利用状況を注視しながら持続可能な公共交通として存続することを期待します。	A	B	通院や買物、通学に利用される生活路線であり、引き続き利用状況を観察するとともに、沿線自治体や運行事業者と連携しながら、必要に応じてダイヤ調整等による利便性向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響もあり、目標値を達成出来なかったことはやむを得ないが、感染防止の取組を行い、利用者に安心してもらえるよう配慮していることは評価したい。 ・今後も状況を見ながら、関係者と連携していただき持続可能な公共交通の確保に努めて頂きたい。
		作木線② 1日 2往復					
	邑南町	宇都井口羽線 17.3km	利用実態及び利用者意見を考慮し、再編実施計画の見直しにより、令和2年3月末をもって廃止とし、代替交通としての機能をNPO法人はずみ振興会による羽須美地域区域運行が担うこととなった。				
		引城区域運行					
江平上ヶ畑区域運行							
NPO法人はずみ振興会 羽須美地域区域運行	羽須美地域区域運行	令和2年度新規	A	A	邑南町3路線が廃止され令和2年4月より三江線代替交通の機能を担う形で羽須美地域区域運行が開始された。一定数、利用がある。引き続き利用状況を観察するとともに利用者ニーズに対応した運行を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・再編実施計画の見直しにより、邑南町の代替として運行を開始したが、目標値も達成しており、利用実態の動向を注視しながら運行していただきたい。 	
川本町地域公共交通会議	大和観光株式会社	申請系統2：川本美郷線 上野～石見川本 平日1.5往復、土日祝3往復 (※令和2年4月より四半期は平日2往復)	沿線自治体、運行事業者と連携し、新ダイヤ適用後の利用状況を観察した。新型コロナウイルス感染拡大により、今年度のモビリティマネジメント事業は中止とした。	A	A	令和3年度以降は新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら公共交通を利用する上での正しい知識について随時アナウンスを行い、利用者とともに安心・安全な利用を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・学生を中心とした利用があり、コロナ渦の中、安心して利用してもらえるよう配慮して運行されており、目標も達成出来ていることは評価したい。 ・厳しい状況が今後も続くと考えられるが、これまで以上に関係者と連携し議論していただき、学生以外の利用者の確保や利便性向上に向けて取り組むことを期待する。
		申請系統6：川本美郷線 石見川本～浜原駅前 平日5往復(※令和2年4月より下半期は平日4往復)	沿線自治体、運行事業者と連携し、新ダイヤ適用後の利用状況を観察した。新型コロナウイルス感染拡大により、今年度のモビリティマネジメント事業は中止とした。	A	A		

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
美郷町地域公共交通会議	備北交通株式会社	申請系統：作木線② グリーンロード大和～三次中央病院 平日2往復 土日祝2往復	運行事業者と連携し、運転時分の適正化を図り、所要時間短縮を短縮させることで利便性を向上させた。	A	B	新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛等で利用が減少したものの、通学・通院利用を中心に、市民の日常生活に欠かせない路線であることから、現在の運行形態を維持する。	・コロナによる影響もあり、目標を達成出来ていないが、外的要因によるものであり、安全に運行に努めて継続していただいているので、引き続き地域の足として、地域・利用者・事業者が連携してよりよいものにしていただくことを期待する。	
	大和観光株式会社	申請系統2：川本美郷線 上野～石見川本 平日1.5往復 土日祝3往復(※令和2年4月より四半期は平日2往復)	沿線自治体、運行事業者と連携し、新ダイヤ適用による利用状況を観察した。新型コロナ感染拡大により、今年度のモビリティマネジメント事業は中止とした。	A	A	令和3年度以降は新型コロナ感染拡大防止に配慮しながら公共交通を利用する上での正しい知識について随時アナウンスを行い、利用者とともに安心・安全な利用を目指す。	・コロナ渦の中、安心に利用してもらえるよう配慮して運行されおり、目標も達成出来ていることは評価したい。 ・これまで以上に関係者と連携し議論していただき、学生以外の利用者の確保や利便性向上に向けて取り組むことを期待する。	
	大和観光株式会社	申請系統3：川本美郷線 上野～ゴールデンユートピアおおち 平日7.5往復(※令和2年4月より下半期は平日6.5往復)	沿線自治体、運行事業者と連携し、新ダイヤ適用による利用状況を観察した。新型コロナ感染拡大により、今年度のモビリティマネジメント事業は中止とした。	A	A			
	大和観光株式会社	申請系統6：川本美郷線 石見川本～浜原駅 平日5往復(※令和2年4月より下半期は平日4往復)	沿線自治体、運行事業者と連携し、新ダイヤ適用による利用状況を観察した。新型コロナ感染拡大により、今年度のモビリティマネジメント事業は中止とした。	A	A			
	駅タクシー有限公司	申請系統8：明塚線 明塚～粕淵中心地区域運行 平日2往復(予約時のみ、運行は令和元年10月から令和2年3月末まで)	利用を促すアナウンスを対象地域に2回実施。母数は5名のまま変化なし。乗り合わせの促進については新型コロナ感染拡大防止の観点から2月以降は取り組まなかった。	A	B			令和2年4月よりタクシー利用助成事業に切替、評価対象より除外した。今後は事業者と調整を行いながら事業の利用促進と免許返納後も利便性が損なわれない体制の確立を目指す。

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	
津山市地域公共交通会議	中鉄北部バス株式会社	(1)津山西循環線 (津山～マルナカ院庄店 ～PLANT5～津山) ・公有民営補助(車両更新) 車両2台 更新 (令和2年10月1日から 運用開始)		A	A	利用者意見に基づき、R2.10月から17時便を創設。更なる利用者意見の反映を実施するとともに、利用周知を継続していく。また、利用者に対し、バス利用時の感染症対策の周知を行っていく。	<p>・コロナによる影響の中、意見を反映したバス停名修正、関係者との連携によるアンケート実施や乗降調査等、出来る範囲で取り組んでいる点については評価できる。</p> <p>・津山西循環線においては延伸による効果が数値に表れており、他系統において今後も引き続き利用者ニーズに応じた取組を期待したい。</p> <p>・今後もコロナによる影響は続くことも予想され、利用者離れがある系統についてはいかに取り戻すか、状況を踏まえつつ関係者と議論をして頂きたい。</p>
		(2)マルナカ西循環線 (マルナカ院庄店～津山～マルナカ院庄店)	R2.2月から津山西循環線、マルナカ西循環線、小循環線の「実情に即さない、わかりにくいバス停」の名称を修正。今後も定期的に適切なバス停名称を実施していく。	A	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少した。接続する「久米支所線」と(1)系統と一体的な運行体系を検討する。また、利用者に対し、バス利用時の感染症対策の周知を行っていく。	
		(3)小循環線 (津山～志戸部～津山)	R元.8月～R2.3月にかけて、包括支援センターと連携し、高齢者のバス停までの移動距離についてアンケートを実施。今後の経路設定やバス停のあり方の参考として活用予定。 循環線及びそれに接続する幹線路線やその他枝線について、乗降調査をR2.6月～8月に実施。	A	C	観光路線としての経路や運行時間検討のための社会実験を予定していたが、感染症のため中止。感染症の動向を踏まえつつ、社会実験の実施を検討する。また、利用者に対し、バス利用時の感染症対策の周知を行っていく。	
		(4)加茂支所線 (イオン津山店前～めぐみ荘)	通学生のバス利用に対して、新型コロナウイルス感染症がどの程度影響を与えているかを測定するため、R2.8月の通学時間帯のみの調査を実施。	A	B		
		(5)勝北支所線 (イオン津山店前～新野桜橋)	新型コロナウイルス感染症の影響により、以下の実施事業や啓発活動は、中止となった。 ・R3.3月～4月「さくらまつり」期間中の小循環線の特別運行実験。 ・高校生向けバス時刻表の配布。 ・例年実施の市立図書館での「バスの日」に併せた企画展とバス塗り絵展示。	A	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少した。また、系統(5)(6)は運行経路の遠大さから、利用離れしているのではないかと指摘もある。運行経路のあり方について検討していくとともに、利用者に対し、バス利用時の感染症対策の周知を行っていく。	
		(6)(奥津川)勝北支所線 (イオン津山店前～奥津川)		A	B		
		(7)津山東循環線 (津山～イオン津山店前～津山) ・公有民営補助(車両更新) 車両3台 更新 (令和元年7月1日から 運用開始)		A	B	「公有民営型」による車両更新により、利用者は増加傾向であったが、新型コロナウイルス感染症の影響が大きくなり、利用者が減に転じた。利用啓発を実施するとともに、バス利用時の感染症対策の周知を行っていく。	
新見市地域公共交通会議	備北バス株式会社	市街地循環線 上市横見～石蟹	利用者のニーズに合うよう、運行形態、ダイヤの見直しを随時行った。 また、新たな利用者の掘り起こしを行うため、新見市の広報誌等で利用促進を図った。	A	B	<p>今後も引き続き利用促進事業などの啓発活動や乗降調査等を行いながら、潜在的な利用者の掘り起こしを行う。</p> <p>また、より一層の利用者の確保を行うため、利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直しを行うことによって、持続可能な運行を実施する。</p>	<p>・JR新見駅での待機時間の短縮を図るなどの利用促進に繋がる取組を努めている点は評価できる。</p> <p>・コロナによる影響を受ける前までは利用者増加傾向にあったこともあり、ウィズコロナアフターコロナを踏まえた議論をして頂きたい。</p>

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	
真庭市地域公共交通会議	真庭市	<p>■フィーダー系統</p> <p>1)令和2年4月以前</p> <p>①森山～久世(1日:12便)</p> <p>②新庄～久世(1日:8便)</p> <p>③北房～久世(1日:12便)</p> <p>2)令和2年4月以降</p> <p>※時刻表変更</p> <p>①森山～久世(1日:12便)</p> <p>②新庄～久世(1日:8便)</p> <p>③北房～久世(1日:12便)</p> <p>■減価償却費補助</p> <p>1)対象車両:5台</p> <p>使用ルート:森山久世 3台 新庄久世 1台 北房久世 1台</p>	<p>利便性の向上・運行の効率化のため、バス停留位置の変更・運行時間の調整・利用者に分かりやすい運行計画の策定を行った。</p> <p>また、小中学生の利用促進のため夏休み期間の乗り放題バスボートの発行を行った。</p> <p>【令和2年4月より】</p> <p>①森山久世ルートの全便ダイヤ改正。(湯原振興局乗り入れ対応のため)12便ダイヤ改正。</p> <p>②新庄久世ルートの5、8便ダイヤ改正。</p> <p>③北房久世ルートの3、9便ダイヤ改正。</p> <p>【夏休み期間中】</p> <p>④小中学生乗り放題バスポート発行。</p>	A	A	<p>市内高校生の登下校対応を基本に、JR姫新線と民間路線バスとの接続及び運転免許証を保有しない市民や高齢者の通院等、日常生活利用にも配慮した効率的で利便性の高い、地域公共交通網形成の維持・確保を今後も検討していく。</p>	<p>・利用者ニーズに合わせて運行内容を見直し、運行時間の調整や小中学生利用促進など利用者の要望に沿った改良を行ったことは評価できる。</p> <p>・小中学生の利用促進策の効果・検証を行い、効果的な取組であれば、同様の取組を継続され、利用者の増加につながることを期待する。</p> <p>・コロナの影響により利用者人数は減少しているが、今後も利便性の向上・運行の効率化を図ることで、公共交通利用促進につなげることを大いに期待する。</p>
玉野市地域公共交通会議	旭自動車株式会社	<p>①玉原・和田・日比エリア</p> <p>②荘内・八浜エリア</p>	<p>市民からの要望、シーバス・シータクの利用状況、地理的要素等を踏まえた最適な交通体系(シーバスとシータクの運行配分など)への大幅な見直しの検討を行い、令和3年3月から実証運行を開始する。</p> <p>コールセンターの効率化を図る目的で、利用が少ない日曜・祝日の予約受付を当日から前日までに変更した。</p> <p>利用者の利便性向上のため、シータクの乗り場移設を実施した。</p>	A	C	<p>令和3年3月から実施予定のシーバスの実証運行開始後も利用者が大幅に減少していないかなど、随時利用状況の分析・検証、見直し等の協議を実施する。</p> <p>シーバス・石島航路について、利用状況等の分析に基づき、利用者の負担額(運賃)と市の負担バランスについて検討する。</p> <p>コールセンターについて、利用が少ない日曜・祝日の予約受付を当日から前日までに変更し、効率化を図ったが、依然コールセンターオペレーターの業務が多岐にわたり、人員不足等が問題になっているため、引き続き効率的なコールセンター運営の在り方を検討する。</p>	<p>・運賃値上げによる逸走はやむを得ないが、目標値が達成できなかったとはいえ、収支率が改善されたことについては評価できる。</p> <p>・コロナの状況を勘案して、今後、利便性の向上や外出機会の創出などが課題であり、要因を検証するためにも、関係者と検証方法も含め議論して頂きたい。</p> <p>・コールセンター運営の在り方については、前年から課題となっているが、業務の効率を図っていただきたい。</p>
	双葉タクシー株式会社	③山田・東兎エリア					
	下電観光バス株式会社	④田井・中央(宇野・築港)・玉エリア					

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
笠岡地域公共交通活性化協議会	株式会社井笠バスカンパニー	(1)デマンド大島中線 大島中地区～笠岡駅～笠岡市民病院を結ぶデマンド型乗合タクシー		A	A	利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、さらなる指標の改善を図ってまいりたい。	・福山・笠岡の公共交通マップの配布や運転免許返納者への公共交通利用の意識付け、季節のバスラッピングなどマイバス意識の醸成を目指した公共交通の利用促進に取り組んでいることは評価でき、これらの効果が発揮されることを期待したい。 ・目標達成状況や利用状況など、コロナの状況を踏まえて分析をすることで利用者促進に向けた改善策を見いだし、目標の達成、さらには持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待する。	
		(2)デマンド尾坂線 尾坂地区～笠岡駅～笠岡市民病院を結ぶデマンド型乗合タクシー		A	B	前年より増加したが、今後、地元の市民団体と協働で、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、また、ダイヤ改正等の検討を行い指標の改善を図ってまいりたい。		
		(3)美の浜線 美の浜地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス		A	C	ダイヤ改正によって便数が増え、利便性は向上したが、目標値の達成には至らなかった。便の効率化を検討するとともに、笠岡市交通交流センターの利用啓発を含めて、地域住民の利用促進及びマイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、利用定着を図ってまいりたい。		
		(4)大島線 大島地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス		A	A	さらなる利便性向上及び、利用促進に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。		
		(5)神島寺間線 神島(寺間・外浦地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス	・福山・笠岡地域公共交通活性化協議会で作成した「福山&笠岡総合時刻表」を、笠岡市交通交流センター(美の浜バスターミナル)、笠岡諸島交流センター(旅客船ターミナル)のほか市内の公共施設へ備え付け、利用促進及び利便性向上を図った。また、警察に協力してもらい、運転免許返納者にも配布した。	A	A	離島航路との接続を考慮した、ダイヤの調整等を行い、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の維持を図ってまいりたい。また、(6)(7)の系統と同路線のため併せて利用の動向を注視したい。		
		(6)神島見崎線 神島(見崎・寺間・外浦)地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス	・事業者による季節に合わせたバスのPR(菜の花やひまわりのバスラッピング)を行い、マイバス意識の醸成を図った。 ・網形成計画に記載されている事業は、今後とも広島県福山市をはじめ各関係団体と協力して着実に実施していく。	A	B	離島航路との接続を考慮した、ダイヤの調整等を行い、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の維持を図ってまいりたい。また、(5)(7)の系統と同路線のため併せて利用の動向を注視したい。		
		(7)神島外浦線 神島(外浦)地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス	・尾坂線と大井ハイランド・尾坂線の統廃合を行い、大井ハイランド・尾坂線の1系統とし、路線の効率化を行った。	A	A	離島航路との接続を考慮した、ダイヤの調整等を行い、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の維持を図ってまいりたい。また、(5)(6)の系統と同路線のため併せて利用の動向を注視したい。		
		(8)城見台線 城見台団地～総合スポーツ公園～笠岡市民病院～笠岡駅を結ぶ路線バス		A	B	ダイヤ改正による利便性向上及び、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。		
		(9)今井循環線(※東西廻の平均値) 今井地区～富岡地区～笠岡駅を結ぶ路線バス		A	C	ダイヤ改正による利便性向上及び、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。また、著しく利用の少ない時間帯について、改廃を検討する。		
		(10)広東線 広東地区～金浦地区～笠岡駅を結ぶ路線バス		A	B	ダイヤ改正による利便性向上及び、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。		
(11)大井ハイランド・尾坂線 尾坂地区～大井ハイランド団地～笠岡駅を結ぶ路線バス		A	A	利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、さらなる指標の向上を図ってまいりたい。				

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
倉敷市地域公共交通会議	株式会社日の丸タクシー	真備地区コミュニティタクシー事業 西ルート(区域運行) (真備町妹尾、尾崎、服部、箭田、市場、有井、川辺、岡田、辻田地区の一部)	・広報くらしき8月号に、コロナ禍における公共交通事業者の感染防止対策の取組みや、利用促進に関するトピックスを掲載した。 ・まび復興だより42号(9/10発行)に、コミュニティタクシーの利用促進に関するトピックスを掲載した。 ・市のホームページにコミュニティタクシーのパンフレットを掲載し、情報発信に努めた。	A	B	今後も地元運営委員会と連携して継続的な広報活動、利用促進活動に取り組んでいく。 また、令和3年4月1日から災害公営住宅への立ち寄りを開始し、利用者増につなげる。(令和2年10月8日に地元運営委員会承認済) また、市のホームページや広報紙等により更なる情報発信に努める。	・コロナ禍における事業者の感染防止の取組を周知し、安心して利用してもらえるよう努力しており、また今後は災害公営住宅への立ち寄りなど利用者増に向けた取り組みを行おうとしていることは大いに評価できる。 ・今後、厳しい状況が続く中、関係者と連携をし持続的な運営を行うための議論を行っていただき、目標を達成することを大いに期待する。	
		真備地区コミュニティタクシー事業 東ルート(区域運行) (真備町市場、箭田、有井、岡田、辻田、川辺地区の一部)			B			
		真備地区コミュニティタクシー事業 南ルートA(区域運行) (真備町市場、箭田、有井、岡田、辻田、川辺、下二万、上二万地区の一部)			B			
		真備地区コミュニティタクシー事業 南ルートB(区域運行) (真備町上二万、船穂町船穂地区の一部)			B			
赤磐市地域公共交通会議	有限会社竹内タクシー	赤磐市吉井地域でのデマンド型市民バスの運行 (系統名 是里線、中山線、滝山線、河原屋線)	デマンド型市民バスの利用者の実人数拡大に努めるという課題に対して、利用促進に向けた啓発を継続して実施した。 具体的には、2次的に啓発されていくことを意図して、目的地となる店舗や診療所へ時刻表を持参して制度説明を行った。また、区長、民生委員等が集う会へ参加して、周知を行った。 また、令和2年4月1日から、75歳以上の方、おかやま愛カード所持者の運賃を半額にし、利用促進を図った。	A	B	新型コロナウイルスが収束して、人の動きが元に戻るまでには時間がかかるのではないかと思慮されるところですが、利用促進に向けた啓発を継続して実施し、デマンド型市民バスの利用者の実人数拡大に努めることが重要であると認識している。 地域住民のニーズをヒトとして、持続可能な交通手段確保に努めることで、ひいては地域を活性化することに寄与していきたい。 赤磐市地域公共交通網形成計画により設定した平均輸送人員等の定量的な基準に基づき、バス路線の増便、減便、運行形態の変更等を検討していく予定である。	・目標は達成できなかったが、コロナの外出自粛の影響もありやむを得ない要因もあるので、運賃半額などの効果が今後あるかを注視していただき、引き続き現状を考慮した取組を関係者と連携し協議を行っていただきたい。	
	有限会社荒嶋建設	赤磐市吉井地域でのデマンド型市民バスの運行 (系統名 西勢実線、中勢実線、暮田・平山線)						
鏡野町地域公共交通会議	中鉄北部バス株式会社	上齋原～マルナカ線	路線バスの利用を促進するため、引き続き町広報誌、ケーブルテレビを通じて呼びかけを行った。 また、高校生の通学支援のため、同じようなルートを通る幹線バスの定期券購入者が利用する際には半額の100円で利用できるように、また3月には中学校に赴き卒業する3年生に定期バスの利用をPRするなどして利用を呼び掛けている。 また、令和元年10月から、週2日運行を毎日運行に増便した結果、利用者数は前年の2,046人から5,238人に増加している。	A	B	・町民の外出支援として定着しつつあるが、さらに新規利用者の発掘を検討する。町としては今後、公共交通計画を策定することにより、高齢者の外出支援等、路線の見直しを検討していく。 ・夏季・冬季の時間変更の際の折込広告は引き続き行い、町ホームページへの掲載など利用促進と合わせ広報に努める。	・引き続き利用促進のために広報誌、テレビを通じて呼びかけを行っていること、ごんごバス西循環線においてはコロナ禍でも年間利用者が増加していることは評価できる。	
		津山ごんごバス西循環線	令和元年10月から本格運行となり、それに合わせて町内を運行する路線バスを西循環線に接続するよう時刻改正を行ったことから、鏡野町-津山市間の移動に利用する人が定着し、対前年3,985人の利用者増となった。		B			
	有限会社中田石油店	富～箱線乗合タクシー	運行回数で、昨年度は一昨年度144回から106回と大きく減少したが、原因は特定の地区で利用していた利用者グループが無くなったこと、帰りの便が遅いことで先行で時間を持て余すという意見を伺っている。 また、中心地まで行くのに乗り継ぎが必要なども遠因となっている。今後のダイヤ改正が必要と考える。	A	C	・富箱線乗合タクシーにおいては、利用している地区が限定されており、原因の把握と、利用がない地区での利用促進や呼びかけが必要である。	・公共交通に関する満足度が目標値を下回っていることに関して、今後も引き続き地域の多種多様なニーズを把握・検証することで、まちづくりと連携した持続可能な公共交通の再編成を期待する。	

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
吉備中央町地域公共交通会議	中鉄バス株式会社	・総社南校北～宮前線	・本路線を当町地域住民に周知すること併せて、運行路線の一部となる総社市地域住民へも周知するために総社市と連携し、当該区域の町内会を通じて広報を展開した。引き続き総社市との連携を強化し、利用者の増加を目指す。	B	C	新型コロナウイルス感染拡大の影響により3月から6月までの利用者は激減しているものの、その他の月では概ね前年度より増加している。事業者への聞き取りによると、高校生以外の利用、また総社市区域内での利用の増加があるためと考えられ、引き続き新規利用者の掘り起こしを実施していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響を受けつつも、それ以外の月は利用者を維持し目標を達成できたことは大いに評価できる。 ・主たる利用者の高校生がコロナの影響により通学減少したことはやむを得ないと考えるが、幅広い関係者と協議を行い持続可能な公共交通に向けた取組を期待したい。 	
		・総社駅～妙仙寺線						
久米南町地域公共交通会議	株式会社エスアールティー	町内全域	利用者利便と生産性の向上を図るため、運行形態の変更を実施した。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の状況もあり乗合率の目標は達成出来ていないが、利用者数の目標を達成できていることは評価できる。 ・利用者数と乗合率についてそれぞれ評価していたれているが、次年度以降は総合的に判断いただければと思う。 ・引き続き利用状況の把握に努め、より持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待する。 		
美祢市地域公共交通協議会	美祢構内タクシー株式会社	山中・堀越外地区	運行事業者等と連携し、地域の实情に応じた運行内容の見直しを検討した。また、福祉部門等と連携し、利用方法等について市民への積極的な周知を行った。	A	B	運行事業者や福祉部門等との連携強化に努め、地域の实情に応じた運行内容を検討するとともに、利用方法を市民へ積極的に周知する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・運行事業者と連携して、地域の实情に応じた運行内容の見直しの検討を行っている点や、福祉部門等との連携による市民への積極的な周知を行っている点は評価できる。 ・目標達成に至らなかった系統や利用状況が減少傾向の系統もあるため、今後も関係者での議論を続けていき地域のニーズに即した運行内容、持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待する。 	
		豊田前・西分地区	スクールバス以外の一般利用の利用促進を図るため、運行事業者等と連携し、地域の实情に応じた運行内容の見直しを行った(R2.4再編)。	A	A	引き続き、運行事業者や福祉部門等との連携強化に努め、地域の实情に応じた運行内容を検討するとともに、利用方法を市民へ積極的に周知する必要がある。		
		西厚保・川東地区	スクールバス以外の一般利用の利用促進を図るため、運行事業者等と連携し、地域の实情に応じた運行内容の見直しを行った(R2.4再編)。	A	B	運行事業者や福祉部門等との連携強化に努め、地域の实情に応じた運行内容を検討するとともに、利用方法を市民へ積極的に周知する必要がある。		
		田代・奥分地区	運行事業者等と連携し、地域の实情に応じた運行内容の見直しを検討した。また、福祉部門等と連携し、利用方法等について市民への積極的な周知を行った。	A	B	運行事業者や福祉部門等との連携強化に努め、地域の实情に応じた運行内容を検討するとともに、利用方法を市民へ積極的に周知する必要がある。		
	美祢第一交通有限会社	美東地域北部	運行事業者等と連携し、地域の实情に応じた運行内容の見直しを検討した。また、福祉部門等と連携し、利用方法等について市民への積極的な周知を行った。	A	B	運行事業者や福祉部門等との連携強化に努め、地域の实情に応じた運行内容を検討するとともに、利用方法を市民へ積極的に周知する必要がある。		
		美東地域南部	運行事業者等と連携し、地域の实情に応じた運行内容の見直しを検討した。また、福祉部門等と連携し、利用方法等について市民への積極的な周知を行った。	A	B	運行事業者や福祉部門等との連携強化に努め、地域の实情に応じた運行内容を検討するとともに、利用方法を市民へ積極的に周知する必要がある。		
	有限会社秋芳タクシー	秋芳地域南部	地域のニーズに応じた運行区域の見直しやダイヤ改正を行った(R2.4再編)。	A	B	運行事業者や福祉部門等との連携強化に努め、地域の实情に応じた運行内容を検討するとともに、利用方法を市民へ積極的に周知する必要がある。		
		秋芳地域北部	運行事業者等と連携し、地域の实情に応じた運行内容の見直しを検討した。また、福祉部門等と連携し、利用方法等について市民への積極的な周知を行った。	A	A	引き続き、運行事業者や福祉部門等との連携強化に努め、地域の实情に応じた運行内容を検討するとともに、利用方法を市民へ積極的に周知する必要がある。		

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			⑥事業の今後の改善点	地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況		評価結果	
岩国市地域公共交通活性化再生法協議会	岩国市	谷津上線 (玖珂駅～谷津上回転場)	JR岩徳線への乗り継ぎに適したダイヤ設定を行うことが利用者ニーズに即した運行となることから、引続きJR岩徳線のダイヤに合わせた運行ダイヤとなるよう調整を行った。 また、利用者への周知については、時刻表の全戸配布や主要施設等に設置するとともにホームページ等への掲載も行っている。 なお、岩国市地域公共交通活性化再生法協議会において作成している岩国市総合時刻表および公共交通マップも活用し周知を図った。	A	C	2つの当該路線を維持することで、隣接市や市中心部への移動手段の確保、高齢者の外出促進、地域住民の活動機会の確保など地域活性化に繋がっているものと考えられる。 このため、今後も引き続きJR岩徳線・広域路線バスへの乗り継ぎに適したダイヤの設定及び啓蒙活動等の利用促進を行う。 また、利用状況に即した内容での運行便数に変更することで1運行あたりの利用者数の向上を図ることにより、持続可能な運行を目指す。	・JR岩徳線への乗り継ぎに適したダイヤ設定や時刻表の全戸配布等による利用者への啓蒙活動、また総合時刻表及び公共交通マップの見直しといった取組を行っている点について評価できる。 ・コロナの影響もあり、利用者数が減少し目標が達成出来なかった系統もあるが、厳しい状況は今後も続くと考えられるため、ウイズコロナ・アフターコロナに即した運行内容について関係者と協議を行っていただきたい。	
		玖西循環線 (玖珂駅～玖珂駅)						
	いわくにバス株式会社	叶木線 (六呂師口～岩国駅)	岩国市地域公共交通活性化再生法協議会において作成している岩国市総合時刻表及び公共交通マップを活用し周知を図った。 また、利用者の要望について、昨年度実施したアンケートをもとに、持ヶ峠線において、令和2年10月から運行時間を変更するよう運行事業者と調整を行った。	A	C	利用者数の増加を図るため、昨年度に実施した利用者アンケートをもとに、運行時間を運行事業者等とともに調整し、より利便性の高い運行となるように努める。		
		二鹿線 (北河内駅～岩国駅)						
		持ヶ峠線 (上迫～岩国駅)						
	下関市地域公共交通会議	下関市	李路子線 豊田総合支所～上李路子	公共施設へ時刻表設置を行い、コロナ対策として、定期的な車両内部の消毒、換気を行い、安心して利用できる環境作りに務めた。	A	A		
一の俣線 豊田総合支所～佐野								
今出線 豊田総合支所～地吉								
一の瀬線 豊田総合支所～中の瀬								
縦の木・保木線 バスターミナル～縦ノ木		自治会を通じてチラシ及び時刻表を配布し、R元年11月文化産業祭にてバス教室を実施し、新たな利用者の確保に努めた。 また、コロナ対策として、定期的な車両内部の消毒、換気を行い、安心して利用できる環境作りに務めた。	A	B				

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			⑥事業の今後の改善点	地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況		評価結果	
宇部市地域公共交通確保維持改善協議会	有限会社嘉川タクシー (～平成31年3月) 宇部市交通局 (平成31年4月～)	二俣瀬線	地域コミュニティと協力し、各自治会ごとに使い方(乗り方)支援等を実施し利用促進を行った。 また、運行内容を周知するチラシ等を回覧した。	A	B	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、利用促進や運行内容の見直しを検討する。	・地域住民の要望や利用実態に応じて運行内容の見直しを行っている点や、チラシの全戸配布やイベントでの周知活動等を行っている点については評価できる。 ・目標を達成できなかった系統もあるが、コロナによる外出自粛といったやむをえない要因もあるため、今後も引き続き利用実態と利用者ニーズの把握に努めると共に、現状を考慮した取組について関係者と協議を行っていただきたい。	
	船木鉄道株式会社	吉部・万倉線	地域住民や事業者へのヒアリングにより利用者ニーズの把握に努めながら、引き続き接続する路線バスとの一体的な見直しを検討している。	A	B	引き続き利用実態と利用者ニーズの把握に努め、接続する路線バスと一体的な利用促進や見直しを実施する。		
	宇部山電タクシー株式会社	西宇部線	「イベントなどの周知活動を継続する。」とした点については、クリスマスキャンペーンを継続した。 また、チラシ等を関係自治会に回覧した。	A	B	イベントなどによる周知活動を継続し、収支率の改善、利用者数の増加を図る。		
		厚南線	チラシ等を関係自治会に回覧し周知を行った。 また、地域住民からの要望により、令和2年10月に運行内容の見直しを実施した。	A	B	令和2年10月に実施した地域住民からの要望による系統新設などの見直し内容を周知する。		
	中央交通(株)	原線	運行内容を周知するチラシ等を関係自治会に全戸配布した。 また、利用実態に合わせ、令和2年10月に運行内容の見直しを実施した。	A	B	令和2年10月に実施した利用実態に合わせた見直し内容を周知する。		
	宇部市交通局	東部市内循環線(めぐりーな)	「周知活動を継続する。」とした点について、市広報紙、総合時刻表、ホームページなどで情報提供を行った。	A	A	運行内容が定着し、利用者が増加しているため、周知活動を継続する。		
		市街地循環線	「周知活動を継続する。」とした点について、市広報紙、総合時刻表、ホームページなどで情報提供を行った。	A	A	利用者が増加しているため、周知活動を継続する。		
		黒石線	「利用動向や要望を踏まえて改善を図る。」とした点について、市民要望を受け、夕方のダイヤを見直した。	A	A	宇部市地域公共交通再編実施計画に基づき都市拠点、地域拠点を高頻度・等間隔運行で結ぶ主要幹線として、今後も利用動向や要望を踏まえて改善を図る。		
	中央交通(株)	桃山線	運行内容を周知するチラシを関係自治会に配布した。 また、令和2年3月の4日間、利用者に粗品をプレゼントするキャンペーンを実施し、新規利用者の獲得と利用の啓発及び促進を行った。	A	B	利用実態と利用者ニーズの把握に努め、運行内容の見直しを検討する。		
	宇部第一交通(株)	東岐波線	運行内容を周知するチラシ等を関係自治会に全戸配布した。 また、利用実態に合わせ、令和2年10月に運行内容の見直しを実施した。	A	B	令和2年10月に実施した利用実態に合わせた見直し内容を周知し、引き続き収支率及び年間利用者数の増加を図る。		
宇部山電タクシー(株)	藤山線	令和2年6月から本格運行したため、前回の事業評価なし。	A	B	利用実態と利用者ニーズの把握に努め、運行内容の見直しを検討する。			

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	
阿武町地域公共交通会議	防長交通株式会社	道の駅阿武町(齋藤医院前)～宇生賀	通勤、通学、通院などの朝夕の利用者ニーズを把握するとともに、ニーズ把握を町と事業者共同で随時行うとともに、町内交通機関の時刻表の作成による利用促進を行った。	A	B	利用者のニーズ把握を行い、通学、通勤、通院などに利用しやすいダイヤや路線を検討していく。	<p>・町と事業者共同で利用者ニーズの把握に取り組んでいる点や、町内行事とタイアップしながら利用促進に取り組んでいる点については評価できる。</p> <p>・今後も利用者ニーズの把握を行い、利用者のニーズに応じた運行内容の検討や地域で連携して利用促進に取り組むことで、利用者の増加、目標の達成、それによる持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待する。</p>
		道の駅阿武町(齋藤医院前)～福賀小前	道の駅阿武町での温泉入浴や買い物、食事などの利用や、学生ボランティアやふるさと祭りなどの町内行事とタイアップし、子どもや高齢者などの日中の利用増に引き続き取り組んだ。	A	B	地区内の交通空白地域における移動を検討し直し、住民自らが行う住民共助の交通支援体制を構築していく等、地区間バスへ円滑な接続を図る。	
長門市地域公共交通計画策定協議会	特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン俄山	俄山公民館～俄山地区～俄山公民館	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の見直しに向けダイヤ見直し等の検討を行った。	A	A	令和元年度に実施した地域住民対象アンケートでの要望内容等を検討した結果、R3.4月より運行日、運行回数の増加を行う。	<p>・時刻表の全戸配布や利用者ヒアリング、向津具・俄山地区における個別訪問等の利用促進の取り組みを進めており、利用者を増加させ、目標を達成している点について評価できる。</p> <p>・渋木・真木地区におけるデマンド交通の導入により、新たに見えてくるであろう課題や要望を基に、利用者ニーズに合った運行内容の協議を重ねていきたい。</p>
	特定非営利活動法人 むかつく	久津・上小田～向津具地区～久津・上小田	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の見直しに向けダイヤ見直し等の検討を行った。	A	A	利用については、目標達成している状況ではあるが、市全体の公共交通体系の見直しの中、地元の要望を踏まえ、R3.4月より運行日の増加を行う。	
	富士第一交通有限会社 長門山電タクシー有限会社 新日本観光交通株式会社	大が迫～真木・湯本温泉・市役所～齊木病院	運行事業者による運行区域内住民への周知	A	C	令和3年度より乗合タクシーを廃止し、渋木・真木地区を営業区域としたデマンド交通の導入を検討している。	
	人丸タクシー株式会社	人丸駅～津黄・後畑～人丸駅	運行事業者による運行区域内住民への周知	A	C	令和3年度より乗合タクシーを廃止し、津黄・後畑地区を営業区域としたデマンド交通の導入を検討している。	
		人丸駅～日置地区～人丸駅	運行事業者による運行区域内住民への周知	A	A	平成30年度に実施した地域住民対象アンケートでの要望内容等を検討した上で、利用者のニーズに沿った運行体系等の見直しを行う。	
柳井市地域公共交通会議	柳井三和交通有限会社	I 系統(柳井駅便)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度から運行形態(運行日数、料金)の見直しを行い、継続して実施した。 ・柳井市のホームページや窓口等での案内により、地域住民に事業の周知を図った。 ・チラシを活用し、民生児童委員、福祉員による個別利用促進を行った。 ・日積地区全世帯を対象にアンケート調査を実施し、運行の見直しにあたっての意向を把握した。 ・住民説明会を実施し、運行制度及び利用登録の説明を行った。 	A	C	路線バスの廃止に伴い、令和2年10月1日から運行の見直しを実施。運行便数の増便と運賃の改定を実施した。	<p>・ホームページや窓口での案内、民生児童委員や福祉員による個別利用促進などを昨年度に引き続き行っている点や、今年度ではアンケート調査、住民説明会も実施することで利用促進に取り組んでいる点は評価できる。</p> <p>・コロナの影響もあり、目標の達成には至らなかったが、今後はコロナも踏まえた運行内容の検討に取り組んでいただき、利用者の増加と目標の達成、それによる持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待する。</p>
		II 系統(大畠駅便)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度から運行形態(料金)の見直しを行い、継続して実施した。 ・柳井市のホームページや窓口等での案内により、地域住民に事業の周知を図った。 ・チラシを活用し、民生児童委員、福祉員による個別利用促進を行った。 	A	C	利用者が見込めないため、令和2年10月1日をもって当該系統を廃止した。	

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標 ・効果 達成 状況	⑥事業の今後の改善点	
山陽小野田市地域 公共交通会議	新興タクシー株式会社	松ヶ瀬・平沼田・不動寺原線 湯の峠・陽光台・山川線	R1年10月から、利用者ニーズに基づき運行便数を6 便から8便へと増便し、利用者の利便性向上を図っ た。また、対象自治会へのパンフレット配布や、利用 者への聞き取り調査により、事業周知及びニーズ把 握に努めた。	A	B	令和2年10月から運行事業者変更に伴い、利用者に対して サービス低下が起こらないよう、利用者に対して十分な周知 を行うとともに、利用者アンケート等を実施し、サービス水準 の維持向上に努める。	・対象自治会へのパンフレット配布や、利用者への 聞き取り調査を行い、事業周知及びニーズ把握に 努めている点は評価できる。 ・今後はコロナという現状も考慮した利用促進策の 検討を行い、利用者数の増加、目標の達成に繋げ ていきたい。
田布施町有償運送 運営協議会	社会福祉法人田布施町社 会福祉協議会	城南・西・東田布施系統	評価内容を踏まえ、福祉関係会議での周知、広報の 活用等有償運送をPRした。	A	C	今後は、新型コロナウイルス感染症対策を意識し、随時状 況を把握しながら、適切な時期を見極め、引き続き社協だより 等での広報、関係者への情報提供、ポスター・チラシ・回覧 等での周知に取り組む。 併せて、運行時間や利便性に関しては、一部の利用者から 提言があったため、利用者の利便性に沿った運行となるよ う、改善に努める。	・例年PRの取組を行っているが、目標が達成でき ていない状況が続いているため、現在行っている PRの取組についての効果・検証を行っていただ きたい。 ・今後は随時コロナの状況を踏まえながら、利用者 のニーズに沿った運行内容の検討を行うと共に、新 たな利用者の獲得に繋がる取組を検討することで、 利用者の増加につなげていくことを期待する。
		麻郷・麻里府系統	評価内容を踏まえ、福祉関係会議での周知、広報の 活用等有償運送をPRした。	A			
周南市地域公共交 通会議	周南市	大道理・須々万線 (河内～大道理・夢求の里交流館～高 原病院)	・地域のニーズを反映し、地区内での乗降をドアツ ードとするため、路線不定期運行を区域運行に変更 するよう協議した。	A	B	引き続き、地域のニーズ、事業者の意見の把握に努め、ル ート、乗降場等の検討を行う。	・地域のニーズを反映した運行内容の変更を行っ ている点や、新たに運行を開始した米川線について、 チラシ等によるPRを行い利用促進に取り組んでい る点については評価できる。
		八代・高水線 (大迫～鶴いこいの里～ ゆめプラザ熊毛)	・隣接自治体が導入した路線バスに代わるコミュニ ティ交通へ接続する米川便の運行を開始し、チラシ等 によりPRを行った。	A	B	・利用者などから要望があるスーパーへの乗り入れを検討す る。 ・隣接する地区への移動について要望がある ・地区内アンケートを実施し、需要を把握し、運行ルートの見 直し等を検討する。	・利用者などから既に寄せられている要望の検討を 行うことはもちろん、アンケート調査等も実施しなが ら利用者ニーズの把握に努め、持続可能な公共交 通ネットワークの構築を期待する。
光市地域公共交 通協議会	西日本バスネットサービス 株式会社	光駅～光市役所～光駅	・毎月の利用者数モニタリング ・県や市のノーマイカーデーへの協力 ・光市公共交通マップの作成、公共施設などへの設 置	A	B	新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大防止対策(手 指消毒液の設置、車内消毒)の継続による安心な利用環境 の提供と沿線施設への公共交通マップや時刻表の追加設置 などにより利用啓発に努め、目標値達成を目指します。	・毎月の利用者数モニタリングや、県や市のノ ーマイカーデーへの協力、公共交通マップの作成と公共 施設などへの設置等、利用促進に取り組んでいる 点は評価できる。 ・コロナの影響もあり目標達成に至らなかったが、コ ロナ時代における安心な利用環境の提供とPRの取 組を行うことで利用者数の増加に繋がることを期待 する。
下松市地域公共交 通活性化協議会	下松市	米川・花岡線	新規事業のため、前回の事業評価なし	A	B	・住民のニーズや意見等を反映し、定時定路線と区域運行を 併用した運行形態として実施していることから、どちらの運行 形態の地区においても地域への認知度を向上させることによ り、更なる利用者の掘り起こしを行う。 ・地域の公民館行事などと連携し、利用促進に繋がる施策を 連携して行う。 ・地域住民からの要望を反映し、令和3年1月より新たな停留 所(上地上)の新設を行う。	・運行開始前に事前説明会や試乗会の実施、チ ラシの全戸配布、マスコミを通じた運行開始のPR等、 多くの啓蒙活動に取り組んだ点については評価で きる。 ・運行開始前の実証実験後に行ったアンケート調査 及び意見交換会で出た要望内容を運行開始時 には反映したということで、今後も利用者のニーズや 意見等の把握に努め、利用者ニーズに応じた運行 内容の検討に取り組み、利用者数の増加、目標の 達成、それによる持続可能な公共交通ネットワー クが構築されることを期待する。